

## 令和6年度 農村RMO四国研修報告書

期 日：令和6年9月8日(日)～11日(水)

場 所：広島県呉市瀬戸田～徳島県上勝

参加者：日高新次 荒武和正 日高康文

### 旅費精算書

取り組み内容	事業費		研修場所
先進地視察・調査	予算222,000円	精算236,500円	広島県瀬戸田レモン・徳島県上勝町

### 研修等受講目的：「将来ビジョン」策定のための先進事例の調査研修

地域での自分たちの暮らしを守り続けていくためには、地域の将来像（ビジョン）を明確に描き共有する必要があります。将来像（ビジョン）の実現の為に、何ができるのか、何をやらなければならないのか、先人達に学ぶのが重要であり、成功や失敗した先例、それらの手法を詳細に検討分析する必要があります。

地域コミュニティを維持保全する為に、先人たちが為してきた「農用地の保全」、「地域資源の活用」、「生活支援」など多岐に渡る活動やシステムを先例として学び、学ぶことによって、実効ある地域の「将来ビジョン」を策定します。

### スケジュールや行動歴：研修における概要

#### ○研修1日目（8日 15:30～18:00）

瀬戸内海に浮かぶ生口島と高根島の2つの島からなる、広島県尾道市の瀬戸田町。これら2つの島はその約半分が急斜面地で占められ、水はけも良く、平均気温は15.6度と温暖で、さらに降水量も少ないという、柑橘類の栽培にとって恵まれた気候、風土を備えています。そのため古くから柑橘類の栽培が盛んで、今では瀬戸田町産レモンだけで全国シェアの約3割を占めるほど。



レモン谷



国産レモン発祥の地の碑・レモンベンチ



レモン谷駐車場

生口（いきくち）島のレモン谷に到着したのは15:30過ぎ。尾道市瀬戸田町のレモン栽培は、明治時代から始まったと言われています。垂水地区の一带を中心に、レモンブームを巻き起こし、昭和38年には、生産量約900トンを誇る日本一のレモン産地となり、誰言うことなく、この谷を「レモン谷」と呼ぶように～。

サイクリングロードに沿って園地が広がり、樹高は2メートル内外、樹間距離は意外と短く1,800mm位の植栽距離であった。急斜面地という事もあり、園地内には縦横に農業用モノレールが敷設してあった。レモン谷周辺の園地を視察した。



○研修2日目（9日 08:00～11:00）

① 高根（こうね）島 人口500人 みかん農家100軒（しまおこし課）

宿泊宿から高根大橋を渡り、高根島を反時計回りに一周するように島内を視察した。移動中農作業（防除作業）をしている二人の方に研修目的を説明し、お話を聞くことができた。

i) 84歳の女性

ジマンダイセン、コテツフロアブル、モスピランの定期防除の作業で水分補給の為休憩中であつたが心安くお話を聞くことができた。

レモンを主として5品目の柑橘類を栽培。出荷は仲買人と市場。自宅周辺に園地があるが、後継者はいなく、間も無く終農。

地域の課題として、若い担い手不足が最たるものである。近隣の島は造船業が盛んで、人手不足に拍車をかけている。繁忙期の手伝いを探してもなかなか見つからない。日当単価も1,000円/時給を超え、採算ベースを圧迫している。後継者のいる栽培農家は数軒で、大体が大規模生産者に限られる。地域の販売先としては、JA（島内）にある選果場、中小の仲買人、個人販売、若い世代はネットを駆使した直接販売に分類できる。

ii) 76歳の男性

島内では2台しかないSS（スピードスプレイヤー）で防除作業。水分補給の為休憩中であつたがこの方からも心安くお話を聞くことができた。

レモンを主として5品目の柑橘類を栽培。出荷はJAが主。自宅周辺に園地があるが、後継者はなく、間も無く終農。地域の課題としては。やはり若い担い手不足が最たるものである。

iii) 長島農園

島内で最大規模の農園で、約20種類の柑橘類を栽培しており、若い後継者が頑張っている。レモンに関しては、マイヤー、リスボン、アレンユーレカを栽培し、9月後半から4月中まで、ネット販売、個人販売、仲買人、JA等に向けて販売している。



## ②生口（いくち）島

### i) 「尾道市瀬戸田支所しまおこし課」

高根（こうね）島を一周し生口（いくち）島に戻り、「尾道市瀬戸田支所しまおこし課」に出向き、レモン栽培の概要を聞く。基幹産業は柑橘農業と造船業。レモン栽培面積は70ha余りで大崎下島と並ぶ2大産地の1つ。

「庭先栽培的な扱いのレモンですら現金化」できる環境にある。生果から加工用までの需要が地元にある。しまなみ海道の観光で定着してきたサイクリング客にとってレモンメニューは目当ての1つになっている。

レモン栽培の増加ペースが高まった2000年代初めにはレモン栽培の有望性について、収穫時期の分散と糖・酸度など厳しく品質を問われないことが高齢化した農家に適している、としてもはやされた。しかし、広島県では2010年以降、レモン栽培面積の伸びは鈍化している。

### i) レモン谷付近で灌水用の水汲みをしていた68歳の男性

日照りが続いて園地の灌水作業を行っているとの事。車両上（2トン車）のタンクに給水できる給水ステーションに、2台分のスペースあり、バルブを開くと給水できる。給水施設の利用料は、ここ4～5年無料。後継者はいないとの事。何故栽培面積が増えないかを聞いた。

まず、寒波に弱く氷点下4度が1日、氷点下6度が5時間続けば枯死する。朝に日当たりのよい東面は、氷点下の時間が短くとも、日出後の気温上昇が早いため、凍結した樹体が急速に溶けて細胞を破壊しやすい。さらに、標高の高い所は管理に向くのに時間がかかり、園地の傾斜も厳しく高齢者には重労働である。レモンへの転作に意欲的な農家がいたとしても自園地に適地がなければ実現しない。地域的にこれ以上の栽培適地がない。

次に、日常的な肥培管理面で「芽かき」作業がある。レモンは春先からの新芽の成長が旺盛で、これを放置しておくとも柑橘潰瘍病の発生源になりやすいという性質を有している。このため、成木化したレモン樹には適宜、新芽を除去する芽かきが必要で、それは初秋まで数回に及ぶ。レモン園の集約的な管理は1人当たり50aが限界だとされており、仮に広く栽培適地を有している農家であっても、よほど労働力が充実していない限りはレモンの大規模専業経営は難しい。

### ii) 感想

栽培面積の伸びは鈍化しているのは、開園可能農地と労働力の不足の両面に起因している様です。広島県の2大レモン産地である「芸予諸島」（瀬戸田地区・大崎下島地区）において今後もレモン栽培の増加ペースが極端に高まる可能性は低いと考えられる。

販売不振ではない「広島レモン」。最たる課題は、「担い手不足」「労働力不足」この点をどう克服するのかに掛かっている。

○研修2日目（9日 15:00～18:00） 徳島県上勝町

徳島県上勝町が全国的に脚光を浴びたのは、町がパソコンやタブレット端末を当時200台（事業費1億円）を配布し「ICT（情報通信技術）」（運用システムのソフト開発費3,700万円）を導入した「葉っぱビジネスの成功」が挙げられます。全て町費負担で行った。

次に、町内にゴミ収集車が走らせず、ごみステーションに常駐のスタッフがて、基本的に住民が直接ごみステーションへ来る「ゼロ・ウェイスト」の成功があります。

この度の徳島県上勝町への視察研修の目的は、「葉っぱビジネス」そのものではなく、「ICT（情報通信技術）」の導入に関するシステムを研修する事でした。

i) 上勝町役場訪問（対応：総務課新開大夢様）

「四国で一番小さな町」と標榜している町役場に出向き行政エリア内の概要についてお話を伺う。



庁舎玄関



庁舎前エントランス

i) 町内周回視察

担当者の説明を受け、町内を周回視察。人口1,500人弱の小さな町で、町内の88%が森林。その殆どが保安林であり、伐採して植林までしたら持ち出しとなり、林業は思った程盛んではない。急峻な山々の中に1本大きな勝浦川の主流を持つ上勝町。

標高100m～700mの間に大小55集落が点在し構成されている。町内には棚田が点在し、高い山の上まで手入れされていた。山は急峻で集落間を繋ぐ町道等も乗用車が一台通れる幅員しかなく、山間の集落がほとんどであった。

「葉っぱビジネス」に由来する特別の区域は無く、その殆どが庭先の畑や

家を囲む雑木山で収穫される様であった。

○研修3日目(10日 09:00～12:30) 徳島県上勝町

合同会社パンゲア 野々山 聡 様

株式会社いもどり 栗飯原啓吾 様(第三セクター)

i) 「葉っぱビジネス」に関する研修

「葉っぱビジネス」の根幹である運用システム(ハードandソフト)を中心に研修依頼をしていたので、システムを実際に管理されている栗飯原啓吾(AIHARA keigo)様の研修を受ける。

初期投資：パソコンやタブレット端末200台を当時町費(事業費1億円)

運用システム ソフト開発 約4千万円

年間保守費500万円弱：システム開発会社(沖縄)へ支払い

通信手段：町内ファイバー敷設完了 タブレットはキャリア事業者利用

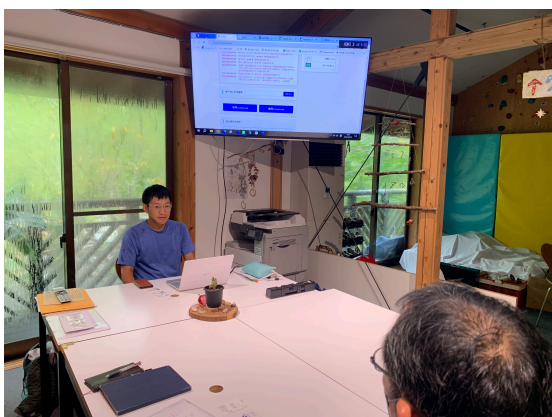
朝8時に入札開始、午前中に出荷 関東へは午後一番で航空便で発送

感想：ハードの初期費用もさることながら、運用のための専用システムの開発に多額の出費があり、年間保守費も相当な額の負担がある。さらにネットワーク側のバージョンアップに伴い、システムそのものもバージョンアップに対応させるために、定期的更新作業の経費が必要となる。

初期費用及び保守費用、並びに更新費用のコストをいかに低く抑えるかが課題である。汎用システムで手間暇をかけてシステムを構築する選択肢を模索検討する必要がある。

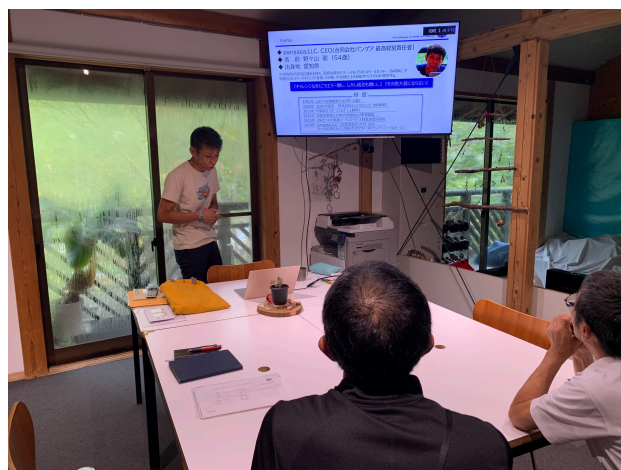
ii) 上勝町有償ボランティア輸送事業研修

町内の路線バスの廃止及び町内のタクシー事業者の撤退に伴い、運転手個人所有車を利用し、保険や運転要件を満たした運行希望者を募り認定し事業を行っている。



栗飯原啓吾様

野々山 聡様



## ○視察研修の成果及び総括

視察研修においては、非常に有意義な経験を得ることができました。この研修の目的は、他の組織の成功事例を学び、当組織の「ビジョン策定」に役立てることでしたが、その目的を大いに達成することができました。

農業を取り巻く環境における最重要課題は、多岐に渡りますが、特に注目されているものに「労働力の低下現象」が挙げられます。高齢化に伴い年々就業人口が減少し続けています。何処の視察地でも、新たな「担い手」の確保が課題でした。

就農者の高齢化に伴い人手不足、担い手不足、地域全体の農業の活力にも影響を及ぼし、地域コミュニティの結束や活性化が失われる恐れがあります。

農業の持続可能性に深刻な影響を与える要因です。これらの問題に対処するためには若者の就農支援や農業の魅力を発信し、持続可能な農業を目指すための政策や取り組みが必要です。また、テクノロジーの活用や地域ぐるみでの労働力の確保が重要となります。

今回の視察研修で私たちは多くのヒントやアイデアに接してきました。今後の活動に対する明確なインスピレーションをもたらしてくれました。この経験を基に、明確な「ビジョン」を策定し、伴走支援後の実走に向けて更なる成長を目指して取り組んでいきたいと考えています。